

令和6年度 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人日章学園
鹿児島レディスカレッジ

1 日 時 令和7年2月14日（金） 14:00～15:45

2 場 所 本校5階教室

3 出席者 計12名

評価委員（5名）

九州旅客鉄道株式会社 鹿児島支社長（関連業界代表）

南国交通株式会社 代表取締役社長（関連業界代表）

有限会社アミーコーポレーション 代表取締役社長（関連業界代表）

有限会社ソニック 代表取締役（関連業界代表）

学校法人日章学園 鹿児島レディスカレッジ後援会 会長（後援会関係）

欠席〔鹿児島女子高等学校長（教育関係）〕

本校出席者（7名）

校長 参与 教務主任 学生指導主任 学科長（2名） 事務局代表

4 会 順

- (1) 校長挨拶
- (2) 学校概要説明
- (3) 評価結果報告、学生・保護者アンケート（自己評価）報告
- (4) 質疑応答・協議

5 協議内容

- (1) 企業（社会）が求める人材
- (2) 専門学校に求めること
- (3) 資格等の取得について
- (4) インターンシップ（社会人教育）の在り方
- (5) 専門学校と企業との今後の在り方

【主な意見】

- ・保護者が専門学校に求められるのは就職率であるが、学生の就職が希望どおりに決定していることや、ヘアアート学科の美容師国家試験全員合格は素晴らしい。
- ・校外研修で実践力をつけるなど、好きなことを強みにして現場で発揮する経験をたくさんしてほしい。行動に移せない学生をどう導くかを先生方にはお願いしたい。
- ・Z世代はルールを守り、協調性がある反面で、自己肯定感が低く、競争することやリーダーになることを嫌がる傾向もある。企業としては将来、リーダーになれる人を育ててもらいたい。
- ・現代は、無駄な寄り道はしたくないという考えの人が増えている。面接対策という、目的を持って真剣に物事に向き合う場面を通して学生を育てて欲しい。物事は直線的にはいかないということを知り、生き抜いていく力をつけることになる。また、学校の中でも本人の幅やアンテナを広げ、中身を増やす指導をして欲しい。社会に出ると、変化球に対応できる力が必要である。
- ・専門学校は、より社会が求めるものを育てられる場所。時代を反映しつつも、不易な部分を受け継ぐことができるのが専門学校のメリットである。社会適応力を育てていくためにも、インターンシップを活用して欲しい。

6 今後の予定

- ・協議において提言をいただいたものは、今後の学校運営に反映したいと考えている。
- ・今回の学校関係者評価委員会における評価結果及び議事録は、HPに掲載予定。